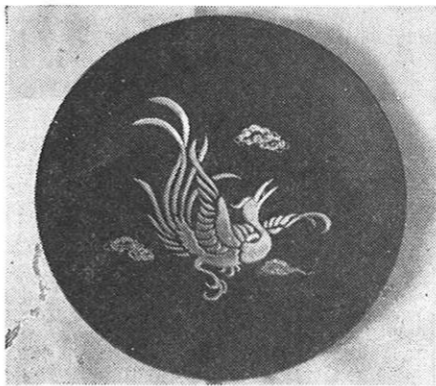


# 熊本白菜「花ざかり」

瓜生田 実は、八代白菜で一回大失敗しました。昨年までは端境期を縫って成功しましたが、今年は寒波のため定植期が遅れたのでトウが立ってしまっただけです。それで東京市場では「熊本白菜花ざかり」と、とんだ悪評でしてね……（一同爆笑）

森山 今、熊本の出荷時期と競合する農産物について調べていますが、集計の結果いわれる間を縫って出荷する態勢をとるようになると思います。

ただ一つ問題は、少くとも主産地を形成する場合、一農協当り十軒程度の生産農地と、計画的な継続出荷がなされなければ荷受機関そのものが相手にしません



量産が望まれる肥後象嵌

からね。

瓜生田 白菜の場合、愛知の貯蔵もの、茨城、埼玉のかこいもの、これらが何時切れるかが問題です。

県が力こぶを入れている特産地形成ですが、これは非常に助かるわけですね。やはり集団栽培、集約的な販売、そういった組織の上に立って市場にのぞまなければならぬと思います。バラバラの販売体制はもう過去のものです。

ただ私共があっ旋する場合、ウエイトをどこにおくかを考えます。例えばお菓子の場合、一軒のお菓子屋を紹介したがいよいよか、県の産産面を考えて多くの人を対象とするか。やはり私たちは県民のウエイトの大ききものを中心に考えなければならぬと思うのです。

## 一つでグーツと上るものを……

馬渡 小倉の場合、青果物はまず殆んどがトラック輸送ですから、交通事故の問題も考えますね。交通事故による遅延というのがかなりありますからね。

それと、まだまだ熊本の場合共販量が少ないですね。その点、大いに開拓の余地があると思います。熊本は何でもあり、しかも切れ目がなくて便利はいいが看板になるものがないですね。それに金目が上らない。大分のカンランとか宮崎のきゅうりとか一つでグーツと上るよ

## 東京で巣立つ

### 木材マンの卵

昭和三十一年、瓜生田東京物産館長の肝りで県下各農業高校林科の卒業生数人が、深川の木場に就職した。これは、林業界熊本の将来を背負って立つ中堅層の育成をねらった館長の遠謀深慮。果せるかな七年後、いまや本場仕込みの経験と技術を身につけた彼等は、深川の木材会社で、東京・神奈川の木材センターで大活躍をしている。

## 市場こぼれ話

瓜生田 西南暖地という、気候のない条件が生かされていないということですかね。

森山 グリンピースも大阪では市場性が低い。さやごと食べるという方向へ嗜好が変ってきているのです。天草のピースもさやえんどうに早く切り替えるべきだと云う考えもあるようです。

馬渡 北九州消費地での熊本からの出荷量は、地元福岡の次に熊本であったのが、今、大分が第二位で熊本はその次に落ちた。やはり看板商品がないからですよ。

益子 流通問題というのが、今ひとつの曲り角にきているといわれるのですが、あつ旋に携きわつてる側としてやは

## 市場だより



そさい (北九州青果K K 米谷課長代理談)

品質は三十五年頃から確かによくなってきた。胡瓜、南瓜などなるべくなら採取時期を早くした方がいいのではないかと。つめ方とか容器の弱さなどいろいろ問題はありますが、出荷体制がまず大切だろう。市場側としても、戸籍のある品物「つまり共販ものでなければ困る場合が多い。商人売りでは取引がまとまらず、価格を崩す結果になり、産地価格を維持するためにも共販一本でやることを望ましいのではないかと。しかし、ここの二年系統出荷が多くなってきており、入荷量も大体安定してきたように思う。

## 果実

(北九州青果K K 安光課長談)

みかん の共同出荷は三十二年度からどうやら軌道にのって来たよう助っている。望むらくは量。熊本みかんが価格の点で東京、関西に魅せられて、北九州への出荷量が余り伸びないようだが、これは早生温州に限った場合で、普通みかんの平均単価は全国市場変っていない。だから普段から主要都市の市場を確保しなごみを持ち続けていくということは必要だと思ふ。東京、大阪の値が下ったから、ちや北九州へ……ということでは困る。

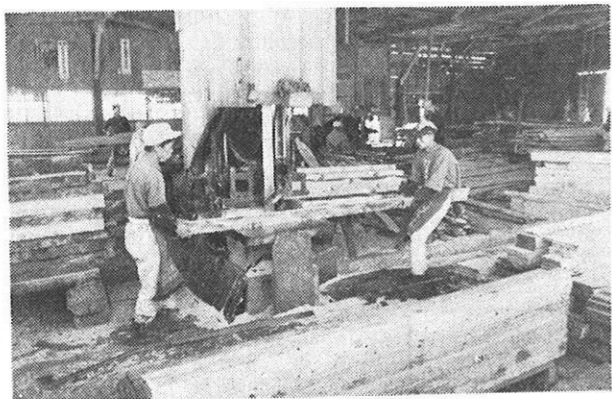
り生産担当の農林各課とも十分打合わせていきたいですね。何といっても生産団体が共販率を上げるよう努力し、又生産担当課もそのように指導してのですから、そこに行政的な空白をつくらないようにつなげたいと思ふねばならないと思ふ。

## 土地品のレベルを高めよう

森山 抱負というなら、大阪市場を熊本の本の農産物で氾濫させたり……。(笑)

長岡 産産館は、物産館とはいささか性格が異なると思ふんです。つまり生産地にあるということですね。だから御見本市、生産指導、観光と結び合った総合的な展示即売場、とこの三つのことを柱にやっ行ってきたいと思ふています。特に生産の指導については、他県に出して自慢のできる質・量ともに優れた土産品ができるような指導を行いたいと思ふています。

瓜生田 そうですね。そして新しい土産品でなくても、例えば限府の抽餡子など手を入れるといいものになりますよ。森山 もっと発掘していいわけですね。馬渡 同感ですね。



製材加工技術も向上

## 馬鈴薯明暗

H県のA農協はアセ道を境にした馬鈴薯の特産地。しかし大阪市場では同じ品物が二十キロ袋単位で、A農協ものがB農協ものより百円も高値になってびっくり。調べてみたらB農協は商人売りで、A農協は系統出荷だった。只それだけの違いだが、仲介人にいわせればA農協の方がコンスタントで信用が持てるし、馬鈴薯の価値以上のものがそこにあるからだというわけ。

## 市場こぼれ話

## 市場だより

### 熊本の豚肉 東京

一昔前の熊本豚は、歩止りの悪さで有名だった。それがここ数年品種の改良著しく、質、量ともに全国屈指の豚肉供給県にのし上った。三十七年には、鹿児島、茨城、岩手について全国第四位の出荷頭数。たゞ、問題は三十八年に入ってから、出荷量が激減したことである。価格変動のあまりの激しさに生産者が先行きの不安を感じ、生産意欲を大きく

北九州での熊本みかんはすでに定評のあるところだし、今後も連続出荷で量ももっと多く出して欲しい。ぶどう は各県とも現在、増産態勢をとって早出しもので勝負しようという気が強くなってきたので勢い早出しものが多し。熊本ものは時期的出荷が一応順調に入荷しているが、早いだけでなく味つけに努力して欲しい。三十年頃まで商人もので占められていたのが、現在では殆んど共販ものになったのが注目される。いい傾向だと思ふし、将来に大きく期待している。(K)

減じた結果であらうが、たしかに豚は、価格弾性の大きさが特徴といわれただけに変動が激しい。キロ当り価格が三十五年四百十三円、三十六年二百九十一円、三十七年には二百二十円に暴落、三十八年上期で四百四十五円。結局、生産体制が問題となるのであるが、仔豚の価格安定と、共同化による多頭飼育こそ解決の鍵であらう。市場での熊本豚の評価は高く、消費層の好みに合っているといわれる。しかし当然、今後の課題となるであろう食肉流通の近代合理化の問題も含めて、熊本豚の将来には、いくつかの問題が横たわっているようだ。(Y)